

小売業

1. 評価対象企業（22 社）

ローソン、エービーシー・マート、アスクル、MonotaRO、J. フロント リテイリング、ZOZO、三越伊勢丹ホールディングス、セブン&アイ・ホールディングス、ツルハホールディングス、良品計画、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、スギホールディングス、ファミリーマート（注）、しまむら、高島屋、丸井グループ、イオン、ケーズホールディングス、ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）評価対象としたユニー・ファミリーマートホールディングスは、2019 年 9 月、子会社（ファミリーマート）を吸収合併（持株会社から事業会社へ移行）し、商号を変更した。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	7	37
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	14
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	9
計		24	100

（注）評価項目の内容および配点は 108 頁参照

（2） 評価実施アナリストは 29 名（所属先 24 社）である。（109 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（107 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**および**説明会等**において、項目の新設（移動を含む）、内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価点は 66.1 点（昨年度 70.4 点）、総合評価点の標準偏差は 10.5 点（昨年度 10.6 点）であった。総合評価点が改善した企業が 22 社中 2 社（パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、ヤマダ電機）にとどまり、評価項目においても、昨年度と比較可能な 21 項目中 18 項目で平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））が昨年度を下回った。
- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4 社：J. フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、高島屋、丸井グループ）：72.3 点（昨年度 76.7 点）、総合小売・コンビニエンスストア（4 社：ローソン、セブン&アイ・ホールディングス、ファミリーマート、イオン）：70.8 点（昨年度 73.5 点）、ネット通販（3 社：アスクル、MonotaRO、ZOZO）：65.8 点（昨年度 73.9 点）、専門店（11 社：エービーシー・マート、ツルハホールディングス、良品計画、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、スギホー

ルディングス、しまむら、ケーズホールディングス、ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ)：62.3点(昨年度 66.1点)となった。各業態とも昨年度の評価点を下回ったが、特にネット通販の下落率が大きかった。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が63%(昨年度70%)、**説明会等**が79%(昨年度75%)、**フェア・ディスクロージャー**が72%(昨年度74%)、**コーポレート・ガバナンス関連**が61%(昨年度67%)、**自主的情報開示**が54%(昨年度60%)となり、**説明会等**を除く4分野が共に昨年度を下回った。
- ④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目が**説明会等**および**フェア・ディスクロージャー**の分野の5項目(昨年度4項目)となった。

- (a) 「月次の売上状況は、十分に記載されていますか」(平均得点率85%)(得点率(評価点/配点(以下省略))：100%7社・90%台9社・80%台3社)
- (b) 「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか(実績について評価)」(平均得点率82%)(得点率：90%台8社・80%台6社)
- (c) 「四半期決算発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」(新設)(平均得点率80%)(得点率：90%台7社・80%台7社)
- (d) 「四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていますか」(平均得点率80%)(得点率：90%4社・80%台12社)
- (e) 「経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」(平均得点率80%)(得点率：90%4社・80%台10社)

- ⑤ 一方、次の7項目(**経営陣のIR姿勢等**の「IRの基本スタンス」の3項目および「IR部門の機能」の1項目、**コーポレート・ガバナンス関連**の「目標とする経営指標等」の1項目および「資本政策、株主還元策の開示」の1項目、**自主的情報開示**の1項目)については、他の項目に比べ全体的に得点率が低く、新設項目を除き、平均得点率は昨年度を下回った。

- (f) 「会社主催の決算説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」(平均得点率44%)(得点率：30%未満7社・30%台7社)
- (g) 「配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか」(平均得点率55%)(得点率：30%台2社・40%台7社)
- (h) 「投資家やアナリストの依頼に応じ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率57%)(得点率：30%未満1社・30%台2社・40%台7社)
- (i) 「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか」(新設)(平均得点率58%)(得点率：30%台1社・40%台2社)
- (j) 「目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分説明されていますか」(平均得点率58%)(得点率：30%台1社・40%台4社)
- (k) 「当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか」(平均得点率59%)(得点率：40%台8社)
- (l) 「将来的な企業価値向上につながる非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率59%)(得点率：30%未満1社・30%台3社・40%台4社)

(2) 上位企業の評価概要

第1位 パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点83.8点〔昨年度比+1.0点〕、昨年度第3位)

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**が第1位(得点率(以下省略)85%)、**説明会等**(91%)、**フェア・ディスクロージャー**(85%)、**コーポレート・ガバナンス関連**(76%)が第2位、**自主的情報開示**が同得点第2位(80%)と

なった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、適時・適切な開示の後退につながることなく、より積極的に IR 活動を行っていること」、「IR 部門とのコミュニケーションが容易であること」、「IR 部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、同部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができること」および「投資家やアナリストの依頼に応じ、同部門以外のセクション（店舗、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」が共に最も高い評価となった。また、「ディスクロージャー・IR 全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が共に最も高い評価となった。これらの結果、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に第 1 位、「IR の基本スタンス」が同得点第 1 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していること」が最も高い評価となった。また、「説明資料等における開示」の中の 3 項目（「決算短信・添付資料と同時に、実績について企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていること」、「月次の売上状況が十分に開示されていること」および「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績変動、合併・提携等）が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること、また、過去の数値と比較できるような情報の開示が十分に行われていること」）が共に最も高い評価となった。さらに、「四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていること」も最も高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」が評価された。また、「決算説明会の内容について質疑応答を含め迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」が高く評価された。さらに、「英文による情報提供が充実していること」が最も高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分に説明されていること」および「資本政策について、客観的かつ合理的に説明されていること」が共に第 2 位、「配当政策等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていること」が同得点第 2 位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社主催の決算説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していること」に関して、国内外店舗見学会、インベスター・デー等が評価され、平均得点率（44 ポイント）の倍のスコアとなり、最も高い評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 丸井グループ（総合評価点 82.6 点〔昨年度比－3.0 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（87%）、コーポレート・ガバナンス関連（85%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等（79%）、自主的情報開示（78%）が第 4 位、説明会等が第 6 位（87%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、適時・適切な開示の後退につながることなく、より積極的に IR 活動を行っていること」、「IR 部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、同部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができること」、「投資家やアナリストの依頼に応じ、同部門以外のセクション（店舗、物流センター）へのインタビュー等について積極的に対応していること」がいずれも評価された。また、「ディスクロージャー・IR 全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していること」が評価されたほか、「将来的な企業価値向上につながる非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。なお、都合の悪い情報を積極的に開示しない傾向が見られるとの声も寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していること」が最も高い評価となった。また、「決算短信・添付資料と同時に、実績および次期事業計画について企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていること」が高い評価となった。なお、月次データ（店舗・WEB 取扱高）の開示について改善の余地があるとの声が寄せられた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会の内容について質疑応答を含め迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」も最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、この分野の4項目（「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、その精神を理解し、進捗状況を含め十分説明されていること」、「目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分に説明されていること」、「資本政策について、客観的かつ合理的に説明されていること」、「配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていること」）全てにおいて、最も高い評価となった。特に、「目標とする経営指標等」は第2位以下に差（10ポイント）をつけた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社主催の決算説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していること」に関して、「MARUI IR DAY」による事業戦略やESGの説明が明確であると評価されたことなどにより、平均得点率を29ポイント上回った。また、「統合報告書、ESG報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」に関しては、「共創レポート」、長期ビジョンを記載した「VISION BOOK 2050」などにより、評価された。

第3位 ファミリーマート（総合評価点 81.2点〔昨年度比－0.1点〕、昨年度第6位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（82%）、**経営陣のIR姿勢等**（79%）、**説明会等**（91%）、**フェア・ディスクロージャー**（84%）が第3位、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第3位（73%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門とのコミュニケーションが容易であること」が最も高い評価となった。また、「同部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、同部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができること」および「投資家やアナリストの依頼に応じ、同部門以外のセクション（物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していること」が共に評価された。さらに、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が評価された。なお、社長交代に伴い、経営陣のIR姿勢等が後退しないか懸念する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「決算短信・添付資料と同時に、実績について企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていること」が高い評価となった。また、「月次の売上状況が十分に開示されていること」及び「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績変動、合併・提携等）が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること、また、セグメント分類やIFRSの導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較できるような情報の開示が十分に行われていること」が共に最も高い評価となった。さらに、「四半期決算発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるよう配慮していること、また、説明会の日程等に十分配慮していること」および「四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていること」が共に最も高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分注意を払っていること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会の内容について質疑応答を含め迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」も最も高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策について、客観的かつ合理的に説明されていること」および「配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていること」が共に評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社主催の決算説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していること」に関して、商品政策説明会、工場見学会、事業説明会などの開催により、高く評価された。また、「統合報告書、ESG報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」に関して、課題別に取り組みがまとめられた「サステナビリティ報告書」などにより、評価された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。

以 上

2019年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（小売業）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目7 (配点 37点)		評価項目7 (配点 20点)		評価項目4 (配点 14点)		評価項目4 (配点 20点)		評価項目2 (配点 9点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7532 バンパシフィック・インターナショナルホールディングス	83.8	31.3	1	18.2	2	11.9	2	15.2	2	7.2	2	3
2	8252 丸井グループ	82.6	29.2	4	17.3	6	12.2	1	16.9	1	7.0	4	1
3	8028 ファミリーマート	81.2	29.4	3	18.1	3	11.8	3	14.5	3	7.4	1	6
4	3086 J. フロントリテイリング	80.5	29.7	2	18.4	1	11.5	4	14.5	3	6.4	5	2
5	3382 セブン&アイ・ホールディングス	78.2	27.6	5	17.8	4	11.3	5	14.3	5	7.2	2	3
6	2678 アスクル	73.2	26.5	6	16.0	11	11.1	8	13.8	7	5.8	7	5
7	2651 ローソン	72.7	25.0	8	17.4	5	10.6	9	13.4	8	6.3	6	7
8	9983 ファーストリテイリング	71.6	24.9	9	16.0	11	11.3	5	14.1	6	5.3	9	10
9	3064 MonotaRO	69.5	25.4	7	16.9	7	11.2	7	12.3	9	3.7	15	9
10	7453 良品計画	65.1	21.1	13	16.2	9	10.2	10	12.2	10	5.4	8	8
11	3099 三越伊勢丹ホールディングス	64.6	22.9	11	15.5	13	9.6	12	12.0	11	4.6	10	13
12	7649 スギホールディングス	63.8	23.0	10	16.5	8	9.4	15	11.2	14	3.7	15	16
13	8282 ケーズホールディングス	63.2	22.6	12	15.5	13	9.5	14	12.0	11	3.6	17	14
14	8233 高島屋	61.3	21.0	15	14.8	17	10.2	10	10.8	15	4.5	11	11
15	3391 ツルハホールディングス	60.1	21.1	13	16.1	10	8.8	17	10.7	17	3.4	18	12
16	9843 ニトリホールディングス	57.1	17.5	22	15.3	15	9.1	16	10.8	15	4.4	13	18
17	9989 サンドラッグ	56.7	19.4	18	15.1	16	8.4	20	10.6	18	3.2	19	15
18	9831 ヤマダ電機	55.2	20.1	16	11.8	21	7.8	22	11.7	13	3.8	14	22
19	2670 エービーシー・マート	54.7	19.1	19	14.6	19	8.2	21	9.7	19	3.1	20	19
19	3092 ZOZO	54.7	19.8	17	13.4	20	9.6	12	8.8	22	3.1	20	17
21	8227 しまむら	54.2	19.0	20	14.8	17	8.7	19	8.9	21	2.8	22	20
22	8267 イオン	50.8	18.0	21	10.0	22	8.8	17	9.5	20	4.5	11	21
	評価対象企業評価平均点	66.12	23.35		15.71		10.05		12.18		4.83		

(注) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

2019年度 評価項目および配点(小売業)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (37点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的にIR活動を行っていますか。	11
(2)IR部門の機能	
①IR部門とのコミュニケーションの容易性はどうですか。	3
②IR部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	6
③投資家やアナリストの依頼に応じ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	3
(3)IRの基本スタンス	
①当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	6
②将来的な企業価値向上につながる非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	4
③会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	3
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示　〔以下①～④については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕	
①決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていますか。（実績について評価して下さい）	3
②決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていますか。（次期事業計画について評価して下さい）	3
③月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2
④投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携等)が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていますか。また、セグメント分類やIFRSの導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	3
(3)四半期情報開示	
①四半期決算発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	3
②四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー (14点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣がメディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	4
②経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	2
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・決算説明会等の内容（注）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。（注）質疑応答を含めて評価してください。	5
(3)外国人投資家向け情報提供	
・英文による情報提供は充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (20点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、その精神を理解し、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	8
(2)目標とする経営指標等	
・目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分説明されていますか。	5
(3)資本政策、株主還元策の開示	
①資本政策（資金調達、グループ持合政策、優先株）について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
②配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (9点)	配点
①会社主催の決算説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。〔過去1年間を目安に評価〕	4
②統合報告書、ESG報告書、ファクトブック、その他これらに準ずるものの内容は充実していますか。（ウェブサイト可）	5

小売業専門部会委員

部 会 長	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	元トビイ証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（29名）

青木 英彦	野村證券	田村 真一	極東証券経済研究所
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	張 影秋	シティグループ証券
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	津田 和徳	大和証券
岩佐 慎介	みずほ証券	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
風早 隆弘	元トビイ証券	仲西 恭子	アセットマネジメント One
金森 都	SMBC 日興証券	納 博司	いちよし経済研究所
金森 淳一	岡三証券	成清 康介	野村證券
栗城 拓也	りそな銀行	西澤 嵐	みずほ証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
高田 訓弘	三菱 UFJ 国際投信	村田 大郎	JP モルガン証券
高田 穰	三菱 UFJ 国際投信	守屋 のぞみ	UBS 証券
高橋 俊雄	みずほ証券	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
武久 緩美	JP モルガン・アセット・マネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。